

第1・2年生複式学級 算数科学習指導案

令和3年1月20日(水) 第5校時

場 所 1・2年教室

指 導 者 山本 有里

- 1 単元名 1年生「どちらがひろい」
2年生「長いものの長さのたんい」

2 単元目標

	1年生	2年生
【知識・技能】	面積についての基礎的な意味や比較の方法、任意単位による測定の方法を理解し、面積についての基礎的な感覚を身につけ、直接比較や任意単位による測定などによって、身の回りにあるものの面積を比べることができる。	長さについて単位と測定の意味や、単位の関係を理解し、およその見当をつけながら量の感覚を身につけるとともに、長さの単位を適切に選択して身の回りのものの長さを測定し表現することができる。
【思考・判断・表現】	身の回りにあるものの面積に着目して、直接比較や任意単位による面積の比べ方を考えたり、任意単位により面積を数値で表したりしている。	上位単位の必要性に気づき、身の回りのものの特徴を長さに着目してとらえ、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている。
【主体的に学習に向かう態度】	身の回りにあるものの面積に関心をもち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。	身の回りにあるものの長さに関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

3 単元について

	1年生	2年生
児童について	<p>とても個性的で子どもらしい。できることも増え、授業にも落ち着いて取り組むことが多くなった。二人の仲は良好なので、受容的に相手の意見を聞くことができる。反面、ブロックなどの操作活動では、本題から脱線してしまい、やるべきことがおろそかになることもある。また、次々に進めようとする子どもと、教師の指示を待つ子どもの差が少しずつ見られることもある。</p> <p>本単元では、ペア活動を取り入れることで協力し合いながら課題解決を目指せるようにしたい。</p>	<p>全体的にとっても明るく活発である。1年生のお世話をしてくれる子どもも多い。休憩時間は、上級生とも交わり過ぎ、教室に残っている子はいない。また、2年生としては機転が利く子どもが多く、指示される前に行動できるところがある。お話好きで、いろいろなことを話してくれる。好奇心が旺盛で、いろいろなことに興味を示す。そういうところがうまく授業に生きるときもある。しかし、普段の授業と違った場面では、緊張からか、いつものような活発な意見が出なくなる子どもが多い。</p> <p>本単元では、3人が活発に意見を出し合い、司会者が中心となり、できるだけ自分たちの力で進められるようにしたい。</p>
指導について	<p>両学年とも、提示された「学習進行カード」を活用し、45分の授業の進め方をパターン化している。提示された「手立て」に沿って、本時の課題をつかむために、問題やめあてを読み、本時の学習課題をつかむ。「時間」と「進行」も意識しながら、学習に取り組ませていくようにする。授業の流れがわかることで、リーダーも進めやすい。低学年では難しい面もあるが、間接指導時に少しでも進行の目安になればいいと思い取り組んでいる。振り返りでは、授業の感想を書いている。初めは上手に書けなかった子どもだんだんと自分の気持ちを書くことができるようになってきた。みんなが書いた感想を発表し合ったりもしている。だんだんと表現力がついてきたようにも感じる。低学年の子どもたちだけで授業を進めていくことは難しい。特に1年生は、初めての体験である。2年生にとってもある程度の経験はあるが、言葉足らずになりがちである。基本的な学習の流れの中で、司会の子どもによりそいながら支援していきたい。</p>	

評価について	<p>2枚のシートの広さの大小を、並べたり、重ね合わせたりして比べる活動を通して、ものの広さの大小に気付かせ、広さの測定の素地を培うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">◆「広さ」の意味を理解している。◆自分が考えた方法で「広さ」を比べることができる。◆重ね合わせて「広さ」の大小の比較をすることができる。	<p>100cmを超える長さを別の長さで表す活動を通して、mとcmの相互関係に気付かせ、100cmを超える長さをmを使って表すことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">◆mとcmを使って長さを表すことができる。◆長さを表す単位「メートル(m)」と、$1\text{m}=100\text{cm}$の単位関係を理解している。
--------	---	---

4 本時の学習

(1) 学習の流れ

1年生(全2時 本時1時間目)		2年生(全6時間 本時2時間目)	
本時の目標 身の回りにあるものの面積に関心を持ち、直接比較で比べることができる。		本時の目標 より長い長さを表すのに上位単位の必要性に気づき、長さを表す単位「メートル(m)」を知り、 $1m=100cm$ の関係を理解する。	
学習の活動	指導の留意点(○)と評価(◆)	学習の活動	指導の留意点(○)と評価(◆)
1 問題場面をとらえる。 2 めあてをつかみ、解決の見通しをもつ。 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> どちらがひろいでしょうか。くらべかたをかんがえましょう。 </div>	○p.106上段の絵のみ黒板に提示する。 ○絵を見て話し合いながら、身の回りのものの面積を比べることを明確にする。 ○シートやお皿の大きさのことを「広さ」ということを教える。 ○既習の「長さ比べ」や「かさ比べ」のときに学習した直接比較の方法を想起させ、本時の学習に入る。	1 ドリル学習をする。	○1人1台タブレットを用意し、各自でドリル学習に取り組ませる。
3 二人で、レジャーシートやお皿の「広さ」の比べ方について、	○前もって児童にレジャーシートを家から持ってこさせておき、大小2	2 問題を知り、めあてをつかむ。	○紙テープの長さを測った活動から、cmより大きい単位が必要であるこ

<p>考える。</p>	<p>枚のセットを作っておく。 ◆自分が考えた方法で「広さ」を比べることができる。</p>	<p>問題</p> <p>りょう手を広げた長さ120cmのべつのあらし方についてしらべましょう。</p> <p>めあて</p> <p>長いものの長さのあらし方をしらべよう。</p> <p>3 長さの単位 「メートル(m)」を知り、1m=100cmの関係を確認する。</p> <p>長いものの長さをはかるのに、1mの物差しがあることを知る。</p>	<p>とを確かめる。</p> <p>○1m=100cmの関係が理解できるよう、1m物差しや教科書p.68の物差しの絵を見せる。</p>
<p>4 比べ方を出し合い、話し合う。</p>	<p>○結果だけでなく、言葉で「広さ」の大小を説明するようにする。 ○どの部分を比べたのかを問うことで、並べて比べる方法だと、2枚のシートの「広さ」を詳しく比較することができないことに気付かせる。</p>	<p>4 120cmの別の表し方を考え、話し合う。</p>	<p>○それぞれの考えをホワイトボードに書いて、発表させる。 ○5cmと2mmをあわせて5cm2mmと表したときと同様に、1mと20cmをあわせて1m20cmと表す複名数表現について確認させる。</p>

	○真上や縦と横をそろえて重ね合わせて比べることで、「はみだしたところがあるから、広いです。」のように、分かりやすく表現できるようにする。		◆mとcmを使って長さを表すことができる。
5 適用問題を する。 教科書 P.106 	◆実際に、用意しておいた3種類のものを使い、重ね合わせて「広さ」の大小の比較をすることができる。	5 学習のまとめ をする。	
ひろいじゅんに いしましょう。		長いものの長さをあらわすときは、メートルというたんいをつかう。	
6 学習のまとめ をする。	○この時間は、重ねて比べる直接比較の方法でまとめるようにする。	6 練習問題を する。	◆mとcmを使って長さを表すことができる。 ○mを使って表すと、小さい数で表現できること、1mものさしを使うとべんりだということに気付かせる。 ○1mのものさしで、教室にあるものの長さを測るようになさせる。
どちらがひろいかは、かさねあわせることでくらべることができる。		(1)つぎの長さをmとcmであらわしましょう (自分たちが両手を広げた長さ) ① 1 1 7 cm = □ m □ cm ② 1 2 3 cm = □ m □ cm ③ 1 3 7 cm = □ m □ cm (2) 1 mものさしで、いろいろなもの長さをはかりましょう。	
7 振り返りをする。 学習の感想をノートに書く。		7 振り返りをする。 学習の感想をノートに書く。	

教室座席配置図

